

AI・人手不足・海外出店…社会情勢が映る 企業発表上半期ランキング

－ 人的資本は広報発表にも、「研修」「人材育成」プレスリリースが増加 －

PR TIMES

2025上半期企業発表キーワード急上昇 ランキング

1位

AI
(+2531件)

2位

生成AI
(+1575件)

3位

AIエージェント
(+860件)

4位

大阪・関西万博
(+849件)

5位

万博
(+830件)

6位

業務効率化
(+798件)

7位

大阪
(+644件)

8位

新店舗
(+534件)

9位

東京
(+416件)

10位

AI活用
(+319件)11位 研修 | 12位 介護 | 13位 大阪万博 | 14位 体験 | 15位 英語 |
16位 営業 | 17位 SEO | 18位 2025 | 19位 秋葉原 | 20位 人手不足

急上昇ランキングでは、2024年と2025年の1月1日～5月31日の期間中に配信されたプレスリリースを比較して、件数が1.5倍以上に増えたキーワードを、増加件数の多い順にまとめています。
特定企業による一時的な発信はのぞいています。

株式会社 PR TIMES（本社：東京都港区、代表取締役：山口 拓己、東証プライム：3922）は 2025 年 6 月 26 日（木）、運営するプレスリリース配信サービス「PR TIMES」において、2025 年 1 月 1 日～2025 年 5 月 31 日に企業から発表いただいたプレスリリース総計 17 万 6625 件を対象にデータ分析をおこない、業界分析と各種ランキングなどを発表いたしました。

トピックス

「AI」が 7261 件で総合 2 位。5 月単月では 1 位に。生成 AI に続き「AI エージェント」が台頭
「研修」「人材育成」「組織開発」増加。人的資本を広報発表でも開示
「新店舗」発信が前年比 2 倍超。東京、大阪に加えて、地方都市・海外でも動き活発に
「熱中症対策」早まる企業発表は昨年比 2.2 倍以上

「PR TIMES」ではプレスリリース発表の際に、発表企業がプレスリリース内容に関係するキーワードを最大 10 個登録することができます。2025 年 1～5 月に発表された総計 17 万 6625 件のプレスリリースのキーワード登録総数は 27 万 2895 種に上りました。件数による順位だけでなく、過去の件数との比較や月別の推移、キーワードごとの詳細な発表内容の分析から、2025 年の企業活動の潮流や企業動向の変遷と流行の兆しをキーワードを通して分析しています。

対象期間：2025 年 1 月 1 日～2025 年 5 月 31 日
集計対象：PR TIMES プレスリリース 17 万 6625 件
発表項目：2025 年上期キーワードランキング、キーワード分析 等
発表日：2025 年 6 月 26 日
発表者：株式会社 PR TIMES
プレスリリース配信サービス「PR TIMES」：<https://prtimes.jp/>

AI 関連キーワードの発信が加速、生成 AI に続き「AI エージェント」が台頭＜急上昇ランキング＞

2023 年の生成 AI ブームを契機に、2024 年にはビジネスや行政分野での実証・実装が進み、2025 年は企業による“AI の活用”が可視化されるフェーズへと移行しています。前年比 1.5 倍以上の増加率のキーワードを増加件数順に並べた 2025 年上半期の急上昇ランキングでは、1 位：「AI」(+2531 件)、2 位：「生成 AI」(+1575 件)、3 位：「AI エージェント」(+860 件)と上位 3 キーワードを AI 関連キーワードで占められています。

「AI」キーワードのプレスリリース発表は2023年から増え続けており、2025年上半期の総合ランキングでは1位の「イベント」に次ぐ2位となりました。

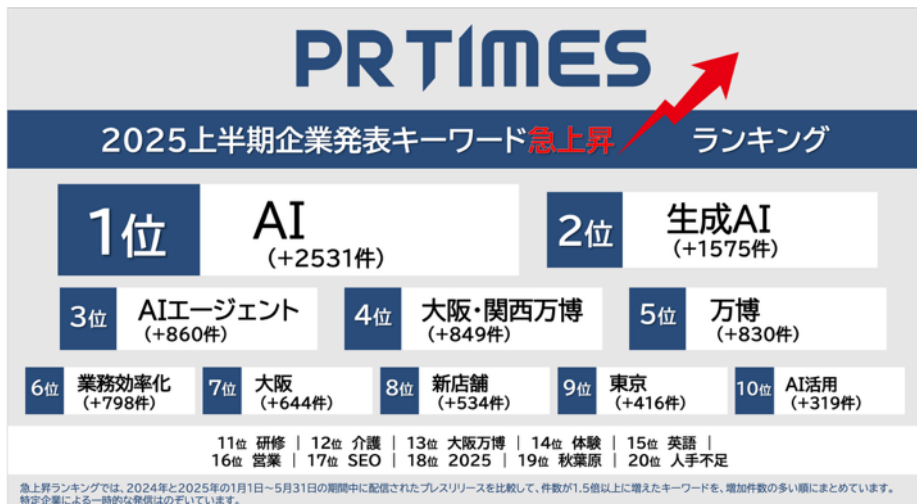
2025年上半期ランキングでは、「AI」7261件（前年比+53.5%）、「生成AI」4022件（前年比+64.4%）と、いずれも前年を大きく上回り、「AI」：2位、「生成AI」：8位と引き続き上昇しています。

そして、今年は新たに「AI エージェント」の出現件数が前年の87倍（870件）と急増し、注目のキーワードとして浮上しました。

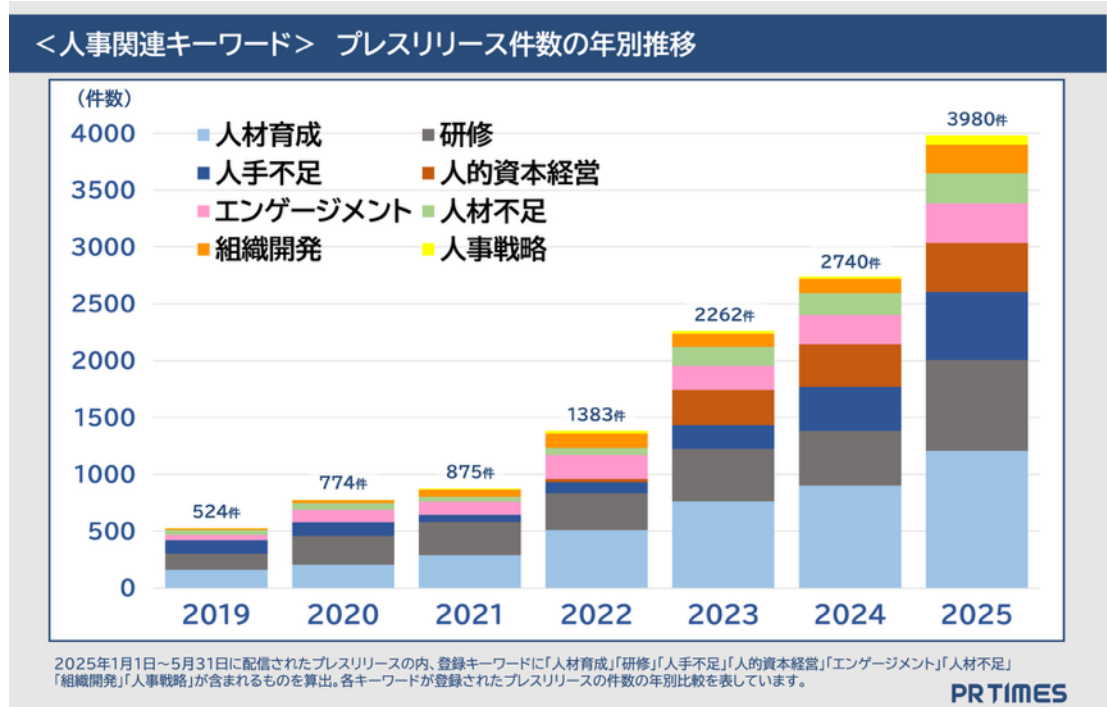
2023年以前はほとんどプレスリリースに使用されてこなかったこのワードが、2025年に一気に可視化された背景には、生成AIの活用フェーズが“対話”から“行動”へと進化していることが挙げられます。2025年前半の「AI エージェント」プレスリリースは、業務の自動化支援やカスタマーサポート、教育分野への応用など、具体的な導入・実装事例が数多く見られ、単なる技術紹介から“事業変革の担い手”としての位置づけが進んでいます。実務レベルの業務支援から、自社専用のAI環境構築、プラットフォーム化、教育活用まで広がりを見せており、単なるトレンドではなく“本格実装フェーズ”に移行したことがうかがえます。

2025年6月4日には、AIの研究開発・利活用を適正に推進するAI新法（人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律）が公布されました。引き続き、AIの活用が社会全体で進み、プレスリリース発表にも関連する情報が増えていくことが想像されます。

また、4位「大阪・関西万博」5位「万博」も、協賛や出展をはじめ、関連するお土産の発売などの発表がけん引したことで件数を伸ばしています。12位の「介護」は全体でも102位となる816件の発信があり、介護用商材のほか、ここでもAIを活用したサービスの発信がありました。



「研修」「人材育成」「組織開発」増加。人的資本を広報発表でも開示



2025年上半期、「人材育成」「研修」「組織開発」など、“人”を育てる取り組みや人事に関連したキーワードが年々増加傾向にあります。関連するキーワードをまとめた件数推移でもその件数が伸びていることがわかります。

なかでも「研修」は2024年：482件、2025年：799件と前年同期比で1.6倍以上に伸びています。この傾向をけん引しているのは、研修プログラムや支援サービスを展開する企業による発信です。新たな研修メニューの提供開始や導入実績を伝える発表が多く見られ、企業の人材不足対策に伴う投資を見込み、支援サービス事業者による情報発信が活発になっています。

一方で、自社の研修制度や取り組みを発信する企業も増加傾向にあります。数十億円かけた研修施設の開設に関する発表もあり、充実した魅力的な研修体制がサービスクオリティ向上に加えて、人材採用（離職防止）の観点からも事業成長につながる取り組みとして発表につながっていると考えられます。

また、新年度スタートの4月をまたぐデータということもあり、「入社式」の発表も多く（件数推移を後述）、企業の特性を活かしたユニークな入社式や研修に関するプレスリリースが多く発信されました。

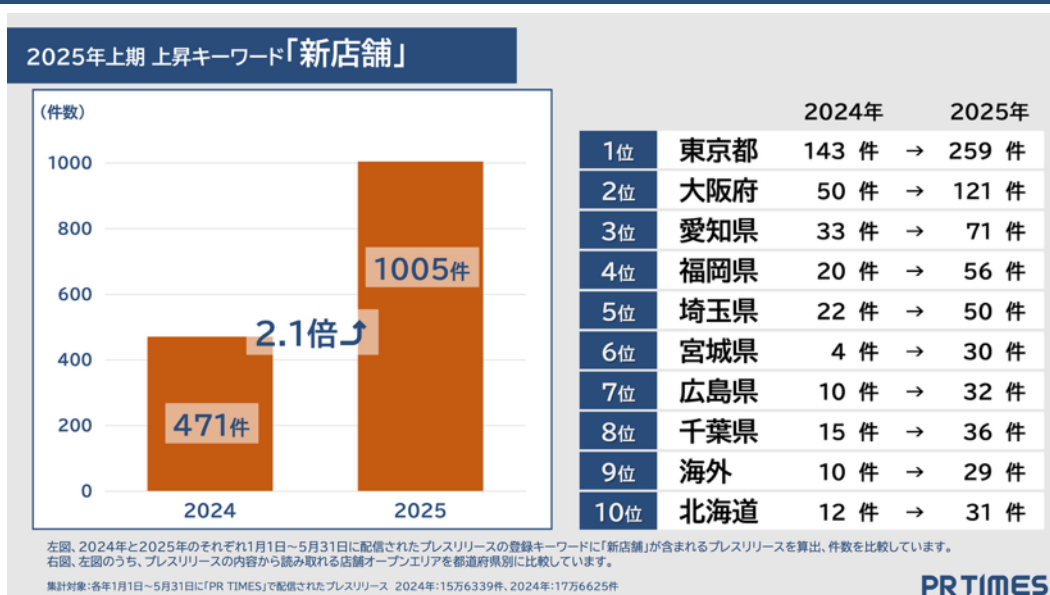
<「入社式」キーワードのプレスリリース件数推移>

2019年：39件
2020年：56件（+43.6%）
2021年：62件（+10.7%）
2022年：88件（+41.9%）
2023年：103件（+17.0%）
2024年：127件（+23.3%）
2025年：156件（+22.8%）←過去最多

こうした傾向には、人手不足に対して人材育成と人材採用が両面で必要とされていること、人的資本開示の義務化が“人材戦略を伝える文脈”を後押ししていることと2つの背景があると考えられます。

「業務効率化」のキーワードが2024年：1271件から2025年：2069件と1.6倍以上増加したことや、2023年：6087件、2024年：5843件、2025年：6367件と「DX」のキーワードがV字回復していることも、人手不足に対して企業が業務の効率という側面でも対策に動いていることを示唆していると考えられます。

「新店舗」発信が前年比2倍超。地方都市・海外でも動き活発に



2025年1月～5月に配信された「新店舗」キーワード付きプレスリリースは前年同期比で約2.1倍となり、過去最多を記録しました（2024年：568件→2025年：1213件）。発信件数の伸びは、都市部の再開発・地方都市での施設刷新・インバウンドや外需を見据えた越境展開といった複数の社会的潮流が重なった結果と見られます。

都市別：都心再開発と地方中核都市での拡張が並行

出店件数が前年より増加した上位地域をみると、東京都（1.8倍、2024年：143件→2025年：259件）、大阪府（2.4倍、2024年：50件→2025年：121件）といった大都市に加え、宮城県（+26件）や広島県（+22件）など地方主要都市の伸びも顕著です。大阪は市内で開催されている国際博覧会に関する発表も多く発信されており、増加率にも影響していると考えられます。

宮城県では、大きな商業施設のリニューアルに伴い、全国展開ブランドや初出店の専門店の発信が集中し、2024年：4件から2025年：30件と7.5倍の増加となりました。政府の地方創生SDGs、地域商業再生などの施策に呼応し、都市再整備とともに店舗開発を情報発信のテーマとする企業が増えたと考えられます。

出店業態：体験型・専門特化型の新業態が増加

発信内容は“〇〇専用スタジオ”“〇〇特化型、体験型”など、“体験”や“こだわり”を訴求する業態が目立ち、店舗を設けることを体験価値として捉えるリテール戦略の転換や、商業施設側との協業施策の強化が背景に考えられます。

海外出店：アジアを中心に“初出店”“現地開発連動型”の発信が多数

海外出店に関するプレスリリースも、前年の10件から2025年は30件と3倍に増加。中国・東南アジア・台湾・韓国を中心に、飲食・ライフスタイル・エンタメと多様な業種が出店しています。

政府の中小企業の海外展開支援やクールジャパン政策、ASEAN市場強化などに代表される公的施策と連動し、円安を追い風に“初出店”や“モールとの連携出店”を発信する企業が増加したと考えられます。単なる海外進出ではなく、現地ブランドとの融合や初のフラッグシップストアなどプレゼンス向上を狙った文脈での発表が特徴的でした。

従来の出店情報は地域密着型で小規模に扱われることもありましたが、有名チェーンや話題店のエリア外進出は、地域外に住むブランドファンや出店先エリアの方に求められる情報です。店舗を持つ企業にとっては店舗数の拡大は企業の勢いを表現できる機会になります。メディアはもちろん、さまざまなステークホルダーに向けたプレスリリースとして、今後も発信数が伸びていくことを期待します。

<キーワードランキング>上半期総合は1位：「イベント」、2位：「AI」。5月単月では「AI」が1位に

PR TIMESキーワードランキング2025上半期 総合(1月～5月)

1位	イベント	8031 件	11位	グルメ	3235 件
2位	AI	7261 件	12位	スイーツ	3001 件
3位	新商品	6587 件	13位	ホテル	2903 件
4位	DX	6367 件	14位	プレゼント	2779 件
5位	キャンペーン	4939 件	15位	旅行	2654 件
6位	期間限定	4750 件	16位	コラボ	2631 件
7位	スタートアップ	4083 件	17位	セミナー	2564 件
8位	生成AI	4022 件	18位	観光	2512 件
9位	SDGs	3579 件	19位	ゲーム	2510 件
10位	マーケティング	3274 件	20位	ギフト	2442 件

PR TIMESではプレスリリース毎に最大10個のキーワードを付けて配信することができます。本ランキングでは、キーワードが使用されたプレスリリースの件数で順位付けしています。
集計対象：2025年1月1日～2025年5月31日に配信されたプレスリリース(累計17万6625件)

PR TIMES

PR TIMESキーワードランキング2025上半期(総合・月別)

2025年各月に配信されたプレスリリースにおいて、登録件数が多いキーワード*上位20を出しています。

順位	1月	2月	3月	4月	5月
1	イベント	イベント	イベント	イベント	AI
2	AI	新商品	AI	AI	イベント
3	DX	DX	DX	DX	DX
4	新商品	DX	DX	DX	新商品
5	期間限定	キャンペーン	キャンペーン	キャンペーン	キャンペーン
6	キャンペーン	期間限定	期間限定	期間限定	生成AI
7	バレンタイン	スタートアップ	スタートアップ	生成AI	期間限定
8	スタートアップ	生成AI	生成AI	スタートアップ	スタートアップ
9	スイーツ	SDGs	SDGs	SDGs	マーケティング
10	SDGs	スイーツ	SDGs	マーケティング	グルメ
11	グルメ	SDGs	マーケティング	SDGs	SDGs
12	生成AI	SDGs	SDGs	プレゼント	ホテル
13	マーケティング	マーケティング	旅行	ホテル	セミナー
14	セミナー	ホテル	観光	スイーツ	スイーツ
15	チョコレート	プレゼント	ホテル	旅行	旅行
16	プレゼント	ゲーム	ゲーム	ギフト	旅行
17	ホテル	旅行	プレゼント	コラボ	プレゼント
18	コラボ	ゲーム	スイーツ	ゴルフデブイーク	ゲーム
19	ギフト	観光	コラボ	教育	コラボ
20	観光	ギフト	セミナー	観光	ギフト

*PR TIMESではプレスリリース毎に最大10個のキーワードを付けて配信することができます。本ランキングでは、キーワードが使用されたプレスリリースの件数で順位付けしています。
※ランキング内において、変更なしで掲載されているキーワードは登録されたプレスリリース数の増減が反映されません。(同順位の場合は右より優先順に)

集計対象：2025年1月1日～2025年5月31日にPR TIMESで配信されたプレスリリース(累計17万6625件)

PR TIMES

2025 年上期総合では、2023,2024 年に続き、「イベント」が1位となりました。そして、2位には「AI」が続き、月別の推移で見れば5月には「AI」が「イベント」を上回り、2023年4月の「DX」以来2年1カ月振りに「イベント」1位から落ちる形となりました。8位の「生成AI」とともにAI関連のキーワードの上昇が目立つ結果となりました。

そして、「夏」のキーワードは昨年同様5月からTOP20入りとなったものの、その順位は2024年：18位から2025年：15位と増加しています。ここには、近年の夏の暑さに向けた暑さ対策商品の発表といった発表が増えていることも要因として考えられます。「暑さ対策」192件（前年比1.64倍）、「熱中症対策」187件（前年比2.25倍）と関連するキーワードがここ数年で増加していることも示しています。

2025 年上半期の注目キーワード「老舗」「アクセシビリティ」

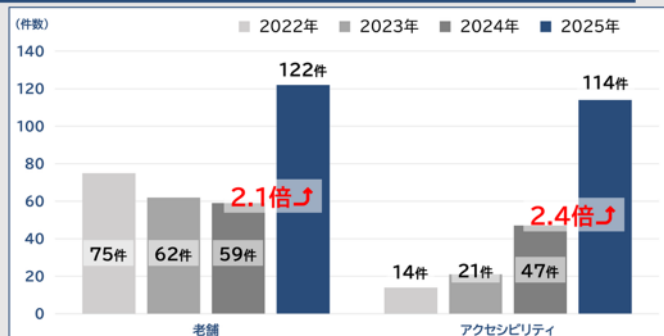
「老舗」

2024年に59件であった「老舗」が、2025年に122件と約2.1倍に増えています。“老舗事業者”による従来の事業とは異なる新商品やサービスについての発表が目立ち、配信元企業が2024年：48社から2025年：73社と増加していることも、“老舗事業者”による挑戦的な事業機会が増えていることと、その情報発信が活発になっていることを示しています。ともに使われることが多かったワードで「伝統工芸」も2024年：158件から2025年：273件と約1.7倍に増えました。

「アクセシビリティ」

2024年に47件であった「アクセシビリティ」は、2025年に114件と約2.4倍に増えました。製品やサービスを誰にも利用しやすい状態とする「アクセシビリティ」を高めることで、社会的包摂性を高め、企業の信頼性やブランド価値の向上につながる効果があり、既存サービスの「アクセシビリティ」向上を発表する内容が見られました。プレスリリース発信機会として挙げられる機能アップデートに際して、同キーワードを絡めて表現する機会が増えています。

2025年上半期注目キーワード 年別比較「老舗」「アクセシビリティ」



2024年と2025年のそれぞれ1月1日～5月31日に配信されたプレスリリースの内、登録キーワードに「老舗」「アクセシビリティ」が含まれるものを算出。各キーワードが登録されたプレスリリースの件数の年別比較を表しています。

PR TIMES

分析担当より 2025 年上半期キーワードランキングを振り返り

株式会社 PR TIMES PR 本部 PR・IR チーム PR リード 杉本 秋

今年の上半期キーワードランキングでは、世の中の動きがプレスリリース（企業発表）に投影されることがよりお伝えできる結果になったと言えます。プレスリリースが従来のメディアに届けるための報道向け資料としての機能を保ちながら、広く社会に届けるためのものとして活用されるようになったことが、今回の結果にも現れていると感じます。

今回のキーワードランキングを、プレスリリースを発信する人、受け取る人、皆さまにとって、楽しんでいただけるものとなっていれば幸いです。



株式会社 PR TIMES について

PR TIMES（読み：ピーアールタイムズ）は、「行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ」をミッションに掲げ、「行動者」のポジティブな情報がニュースの中心となり、個人を勇気づけ前向きにする社会の実現に挑んでいます。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのがプレスリリースだと考え、企業規模を問わず「行動者」が自ら発信できる、PR の民主化を目指して事業を展開しています。プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の利用企業数は 10 万 8000 社 を超え、国内上場企業の 61% 超 に利用いただいています。情報収集のため会員登録いただく メディア記者 2 万 7000 人超、サイトアクセス数は 月間約 9000 万 PV、プレスリリース件数は 月間 3 万 9000 件超、累計で 200 万件 を超えています。全国紙 WEB サイト等含むパートナーメディア 260 媒体以上にコンテンツを掲載しています（2025 年 2 月時点）。



他にも、ストーリーで伝える「PR TIMES STORY」、動画で伝える「PR TIMES TV」、PR 活動の設計から実行まで伴走する PR パートナー事業、アート特化型の PR プラットフォーム「MARPH」、「isuta」「STRAIGHT PRESS」等のニュースメディア事業で、情報発表とその伝播を支援する他、生まれた企画が発表に至るまで前進できるよう支える タスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」、さらに発表後のお客様対応や情報整理を円滑に行える カスタマーサポートツール「Tayori」 など、「行動者」を立体的に支える事業を運営しています。

また子会社には、スタートアップメディア「BRIDGE」を運営する株式会社 THE BRIDGE、ソフトウェア受託開発を行う株式会社 グルコース、SNS マーケティング支援の株式会社 NAVICUS があります。

【株式会社 PR TIMES 会社概要】

ミッション：行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ

会社名：株式会社 PR TIMES（東証プライム 証券コード：3922）

所在地：東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インターシティ 8F

設立：2005 年 12 月

代表取締役：山口 拓己

事業内容：
- プレスリリース配信サービス「PR TIMES」(<https://prtimes.jp/>) の運営
- ストーリー配信サービス「PR TIMES STORY」(<https://prtimes.jp/story/>) の運営
- クライアントとメディアのパートナーとして広報・PR 支援の実施
- 動画 PR サービス「PR TIMES TV」(<https://prtimes.jp/tv/>) の運営
- アート特化型オンライン PR プラットフォーム「MARPH」(<https://marph.com/>) の運営
- カスタマーサポートツール「Tayori」(<https://tayori.com/>) の運営
- タスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」(<https://www.jooto.com/>) の運営
- 広報 PR のナレッジを届けるメディア「PR TIMES MAGAZINE」(<https://prtimes.jp/magazine/>) の運営
- プレスリリース専用エディター「PR Editor」(<https://preditor.prtimes.com/app/>) の運営
- Web ニュースメディア運営、等

URL：<https://prtimes.co.jp/>

PR TIMES